

令和6年度学校研究

○ 研究主題・副主題

「対話を通して、問題解決できる児童の育成」

～学習者主体の授業を目指して～

○ 育成を目指す資質・能力

主体的に学ぶ力、問題発見・課題解決能力

○ めざす児童像

- ・ 主体的に向かい、自ら考えて課題解決しようとする子
- ・ 友達や資料と対話しながら考えを深める子

○ 研究の重点と内容

研究の重点

○ 問題を解決する場の充実

個の見取りと支援

- ・ 問題を解決するために、どのような解決方法を取り入れるか。
～＜自力での探求＞と＜考えの交流＞～
- ・ 児童をつなぐ教師のアシスト。（共通の軸の意識）
- ・ ふり返りの充実（内容知と方法知）。

（1）授業づくり

○ 押水第一小「授業の流れ」ベーシック版・スタンダード版

- ① 学習者主体の授業展開（国語・算数・理科を中心とする）
 - ・ 児童の発達段階や単元の特性に応じて自己決定の場を取り入れる。
- ② 個の見取りと支援でねらいにせまる★重点
 - ・ 探求を深める教師の発問・問いかけ
 - ・ 誰のどのような考えを交流に活かしていくのか
 - ・ ICTを活用した協働学習

○ 押水第一小「授業の流れ」の実態把握

- ・ 相互参観
- ・ 研究授業（事前の模擬授業も含む）
- ・ 教員アンケート

押水第一小「授業の流れ」(ベーシック版)

		内容	留意点
導入	スタート	チャイムとともに号令 前時の復習	<ul style="list-style-type: none"> 必要な学習道具を準備しているか確認する。 既習内容は、必要に応じて板書する。
	つかむ	A 問題提示 B 問題把握 C 課題づくり	←児童の主体性を高めるよう工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> 身近なものを題材にする、問題の続きを予想するなど ←題意を読み取らせる。 <ul style="list-style-type: none"> 問題状況をイメージさせる。 聞かれていることに注目させる。 ←子どもとともに思考課題を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> 前時の学習との違いに注目させる。 「どうして」「どんな」「どのように」など
展開	考える 学び合う 深める	A 見通し B <自力での探求>★ C <考えの交流>★ D 全体交流	←課題解決の見通しをもたせる。 <ul style="list-style-type: none"> 課題解決の手順やヒントを児童から引き出したり、答えを予想させたりする。 ←思考時間を確保し、自力解決の場面を設ける。 <ul style="list-style-type: none"> 根拠(図・叙述・経験など)をもとにして、自分の考えが持てるように指導する。 ←学習形態を選択し、考えを交流する。 <ul style="list-style-type: none"> 課題解決に適した学習形態(ペア・グループ・自由交流)を設定する。 話し合うことを明確にしてから、話し合いを始める。 ←聞き手を意識させながら、全体で考えを交流する。 <ul style="list-style-type: none"> 聞き方・話し方の学習規律を徹底する。 思考をゆさぶる発問を通して、深い学びへと向かわせる。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><自力での探求>と<考えの交流></p> <ul style="list-style-type: none"> 自力での探求で自分の考えを持った後に対話を取り入れる。 何のために、どのような対話を取り入れるかを教師が意識する。 どのような形態(グループ・全体など)で、どんなツールを使って考えなどを明確にして対話を取り入れる。 </div>	
終末	まとめる ふりかえる	A まとめ B 適用問題 C ふり返り	←板書のキーワードを使って本時の学習を自分の言葉でまとめる。 ←ねらいに即した適用問題に取り組ませる。 <ul style="list-style-type: none"> 学力調査問題等の活用 ←ふり返りを通して、学びの自覚・変容をつかませる。

押水第一小「授業の流れ」(スタンダード版)

		内容	留意点		
導入	つかむ	A 問題提示 B 問題把握 C 課題づくり	<p>○児童の問題意識・課題意識を高めるよう工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な題材、当事者意識など。 <p>○本時のゴールイメージをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 問われていることを明確にする。 どうなればゴールなのかをイメージさせる。 <p>○子どもが納得する思考課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年の実態や単元の性質に応じた設定の仕方に留意。 単元の導入で学習計画を立てる際に、単元内容を多面的にとらえ、単元を見通して課題を立てる場合もある。 		
展開	深める 学び合う 考える	A 見通し B 個に応じた探求活動 (自己決定) C 全体共有	<p>○課題解決の見通しを持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決の手順やヒントを児童から引き出したり、答えを予想させたりする。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p><自力での探求>★</p> <ul style="list-style-type: none"> 何をどのように調べればよいのかを押さえる。 解決するためには何が必要かを考える。 問題と正対しているか、根拠として充分か、別の見方がないか等、自分自身で補完する。 </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p><考えの交流>★</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決のための学習形態を児童が自己決定する(ペア・グループ)。 自分がどんな情報が欲しいのか、どんなヒントが必要なのかを明確にして話し合う。 </td> </tr> </table> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 児童をつなぐ 教師のアシスト </div> <p>○必要に応じて、全体でお互いの考えを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの考えを共有して解決へのヒントを見出す。 思考をゆさぶる発問で、深い学びへと向かわせる。 	<p><自力での探求>★</p> <ul style="list-style-type: none"> 何をどのように調べればよいのかを押さえる。 解決するためには何が必要かを考える。 問題と正対しているか、根拠として充分か、別の見方がないか等、自分自身で補完する。 	<p><考えの交流>★</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決のための学習形態を児童が自己決定する(ペア・グループ)。 自分がどんな情報が欲しいのか、どんなヒントが必要なのかを明確にして話し合う。
<p><自力での探求>★</p> <ul style="list-style-type: none"> 何をどのように調べればよいのかを押さえる。 解決するためには何が必要かを考える。 問題と正対しているか、根拠として充分か、別の見方がないか等、自分自身で補完する。 	<p><考えの交流>★</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決のための学習形態を児童が自己決定する(ペア・グループ)。 自分がどんな情報が欲しいのか、どんなヒントが必要なのかを明確にして話し合う。 				
終末	ふりかえる まとめる	A まとめ B ふり返り	<p>○個々が展開してきた学習についてまとめる(内容知)</p> <p>○本時の学びをふり返り、自己の変容を自覚するとともに、次時の学習への意欲を高める(方法知)</p>		

(2) 学びの土台作り

○ 相手意識をもった話し方・聞き方の徹底

- ・ 聞き手の方に体を向けて話す・図や資料を指し示しながら説明する。
- ・ 話し手の方に体を向けうなずきながら聞く・納得したり疑問に思ったりしたことを反応で示す。



○ 全体での発表・表現の場の充実

- ・ 学校行事（全校集会での生活目標のふり返り，卒業式など）
- ・ 児童会活動（児童集会，学年発表，6年生を送る会など）
- ・ 異学年交流（1年生を迎える会（縦割り遠足），遠足，体験学習，など）
- ・ 地域の方との交流学习（あじさい交流会，昔遊び交流会など）
- ・ ランチルームでの委員会からのお知らせ

○ 基礎基本の定着，活用力を付ける朝学習・帯タイム

	月	火	水	木	金
朝学習	読書	国語 (基礎基本 活用)	算数	国語	算数
ドリルタイム	自学紹介 パソコン				

NEW: (2週間に1回)

児童同士で、自学ノートを紹介し合い、主体的に取り組もうとする態度と意欲の向上を図る。

○ 家庭学習の習慣化・生活習慣の改善を図るための取組

- ・ 第一っ子カードチャレンジ週間（5, 6, 9, 11, 1月に実施）
- ・ 自学ノート（級外が点検する or 児童同士で良いノートを紹介し合う★児童の主体性）